

私の避難計画づくりをサポート! ～上ノ加江小学校の南海地震津波対策防災学習会～

県は「漁村の人々を守る津波対策」の基本方針を取りまとめており、上ノ加江地区をモデルとして、この作業を進めています。

この方針策定に関連して、上ノ加江小学校では、子どもたちが主体となって、南海地震津波から命を守る「逃げる」を前提とした避難計画づくりを、DIG(災害図上訓練)を活用しながら、ワークシopp方式で実践することになりました。

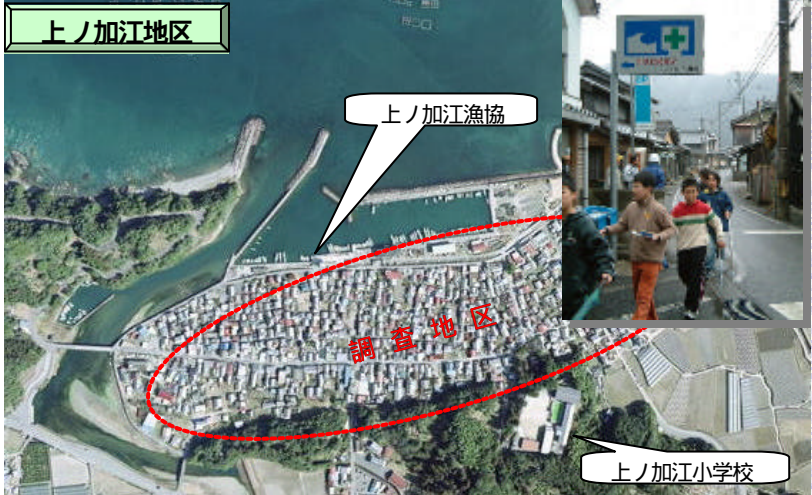
県沿岸に甚大な津波被害を与えてきた南海地震は、今まで一〇〇一五〇年ごとに発生しており、次は今世紀前半までに八〇%の確率で起こると予想されています。

海洋局では南海地震津波対策を最重点課題として位置付け、避難路、避難広場の整備や地域防災計画づくりの支援など、様々な取り組みを行っています。

今回は、海洋局がお手伝いした、上ノ加江小学校の私の避難計画づくりについてご紹介します。



高知市丸の内
高知県海洋局
発行人 久保田寿一
編集人 海洋企画課
定 価 無料



フィールドワーク

当日は、あいにくの小雨模様でしたが、地域の消防団員の方々と町の職員の方なども参加してしてくれました。

子どもたちは、家が近所の者同士でグループを作り、自分たちの家の近くをスタート地点として、避難場所である小学校までの避難路を歩きながら危険な箇所などをチェック。



子どもの目線で

子どもたちは、地震津波の基礎的な知識を得る勉強会や、昭和南海地震経験者への聞き取り調査を既に行っており、当日は実際に漁村を歩き、避難場所や道路、家屋の状況を調査して、自分たちの住む地域の弱点や問題点を見つけたし、最終的には、各自が私の避難計画としてまとめることを目標としています。

三つ子のたましい

やはり、机の上で考えるより、実際に見て考えた体験の方が頭に残っていたようです。子どもたちが生涯にわたるような行動が出来るよう役立てて欲しいものです。

犬はどうする??

学校に帰り、チェックしてきた内容を地図に落とし、グループごとに気がついた点を発表しました。

「津波が来た時、犬はどうする?」など子どもらしい意見や「避難路よりこっちは早く行ける」、「お年寄りが多いので声を掛け合って逃げないと」など基本方針にも反映すべき貴重な意見も出ました。



漁協合併を推進しましょう

預金は漁協を利用しましょう

購買は漁協を利用しましょう

預金、公共料金は信漁連へ

【編集後記】

神戸の地震から10年。テレビでもよく特集などが組まれている。3才の息子曰く「地震怖い〜(×)新しいお家建てて〜」父曰く「ハードよりソフト。逃げるが基本。」我が家に当面新築の予定はない。

「FILM」

インドネシア沖地震の津波の映像はその恐ろしさを見せつけ、ゆっくりとしたスピードに進む膨大なエネルギーに驚愕した。津波という言葉が世界的に通用する事からも、日本と津波の関係がいかに深いかを窺い知ることが出来る。各漁村では津波対策が喫緊の課題だ。「まず逃げる」を基本としたソフト対策を徹底させなければならぬ。

漁業経営のことなら、今すぐお電話を!

専門アドバイザーが、漁業経営、流通改善について無料でご相談に応じます。まずはお電話を!

漁業経営指導協会 tel088-825-3980
上原アドバイザー tel090-1570-1904